

に値する資料がなかったため、尼寺には必ずしも関係のない仏教美術に焦点を置いた美術史的研究法による資料から推論を引き出すしかなかった。そこで調査訪問の主要な目的の1つには、比丘尼御所に関する日本語での研究資料を出来る限り集めること、そして縁切り寺と東慶寺についてより詳しい情報を集めることであった。調査訪問のもう1つの目的は、近世日本の仏教における女性について研究している教授と面会する機会を持ち、助言を求めることであった。

### 3. 調査訪問の成果

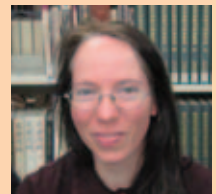
資料を集めることが調査訪問の主要な目的であったが、研究分野の教授と面会できたことが、結果的にはより大きな収穫となった。調査訪問の最初の週末、非常に幸運なことに、私は東慶寺で高木<sup>ただし</sup> 侃 教授とお会いし、話を伺う機会を得た。高木教授は江戸時代の「離縁状」に関してこれまでに多くの論文を執筆されている。また法制史と併せて、幕府公認の2つの縁切り寺である鎌倉の東慶寺と群馬の満徳寺についても研究されている。高木教授からは、研究資料に関する助言を頂き、さらには

出版されているご自身の研究資料を頂いた。英語の研究資料だけで東慶寺について十分な研究を行ったつもりでいたならば、私は大きな間違いを犯すところだった。私はこの面会の機会が得られたこと、そして新たな資料を入手できたことを嬉しく思う。

次に、比丘尼御所制度の研究に関して、私は京都と神戸に小旅行をし、近世の比丘尼御所研究の分野で第一人者である方たちに会いに行った。京都では、尼寺大聖寺の支院である大歓喜寺の中にある中世日本研究所で、2人の研究者にお会いした。神戸では、ある大学教授にお会いした。教授は2つの比丘尼御所について掘り下げた研究を行い、比丘尼御所制度全般について、また2つの比丘尼御所のうちの1つの人的構造について、全般的背景知識を提供されている。

全体として、この学術交流は私にとって非常に素晴らしい機会となった。この交流は私の研究の方向性に大きな影響を与えるものであった。私はこれからも駆け込み寺と比丘尼御所の基礎構造について分析・詳述するというテーマを追究し続け、近世日本の仏教および女性に関する研究に貢献していきたい。

## 念願の日本コロムビア訪問



Caroline Boissier  
(パリ第7大学)

こんにちは。フランスから来ましたカロリーヌ・ボアシエと申します。パリ第7大学の6年生です。私は日本の音楽産業について研究しています。博士論文は、日本コロムビアというレコード会社についてですが、フランスの図書館ではなかなかそれに関する書籍等を見つけることができません。今回、研究者として、非文字資料研究センターを訪問する機会に恵まれましたので、論文を書き上げる道筋が見えてきました。

日本コロムビアという会社は、日本では一番古いレコードレーベルになります。論文を書き上げるにあたって、私は、日本コロムビア社の歴史と、レコードのテクノロジー発展が重要なポイントだと思っていますが、テクノロジーに関する研究は難しいのではないかと思います。そこで、滞在の最後の研究発表に向けて、特にテクノロジーの発展について調査したいと思いました。

まず、神奈川大学に来る前に、私はフランスから、日

本コロムビア社に手紙を送りました。社史なども含む質問も書かせていただきましたが、うまく伝えられなかったかも知れません。

そこで、私は非文字資料研究センターに到着して、先生やチューターとお会いした際に、そのことも含め、私の研究について相談しました。先生方からは、いくつかアドバイスもいただき、日本コロムビア社に関する質問については、訪問前に少し修正していきましょうとご提案くださいました。

そして、ついに、日本コロムビア社を訪問する日がやってきました。日本コロムビア社の方々は、一生懸命私の質問に答えようとしてくださいました。私の質問が複雑だったため、多くの書籍の中から答えを探そうとしてくださいました。また、そこでは、最古の機械から最近の機械まで、様々な機械を見せてくださいました。スタジオで、レコードの録音風景も見学させていただいたので